



かわちながの ものづくり探訪

Made in Kawachinagano

29

作

創

天然素材にこだわり 多種多様な商品を生み出す 大宅産業株式会社

1 毎週行われる担当者たちによる商品の企画・開発会議 2 同社のつまようじ製品 3 「絶えずアンテナを張り、一步先を読み取らねば」と語る大宅幸治社長 4 5 インテリア用品の数々

■ 同社の原点はつまようじ

大宅産業株式会社は大宅幸治代表取締役の父である大宅三郎氏が昭和33年に輸出用のつまようじを製造したのが始まり。それ以来、約30年間つまようじを製造した同社は、平成の初めに中国製の製品が市場に出回ると価格では太刀打ちできない状況に。そのため、海外の製造協力先を開拓し、企画・開発に特化した業態に向かっています。

■ 木製ネームプレートがヒット

昭和53年からつまようじ以外にも木製祝箸や割り箸を生産して

いた同社は平成7年から調理用竹小物を中国から輸入し、既存の販売網で販売。さらに木製の表札や木製文字・プレート(右写真)などの家庭



工作商品にも挑戦し、木製文字の商品群がヒットしたことで、会社のその後の方向性が決まります。「木製文字は以前から他社で販売されていましたが、価格抑制のため海外の協力工場と試作を重ね苦労した結果、お子様にも手軽に楽しんでいた

だけのヒット商品になりました」と大宅社長は振り返ります。そこからインテリア、園芸、家庭用品へと取り扱う商品を広げ、今ではその数が1000種以上に。それらは全国の100円ショップやホームセンターなどで売られています。

順調に見える販売品目の拡大ですが、そこに至るまでかなり悩んだ時期もあったといいます。「つまようじに固執せずもっと広い視野で、ものごとを捉えたら」という得意先からの助言に後

押しされ、家庭用品全般に商品開発を広げたと大宅社長は当時を懐かしみます。



▲春らしい色合いの木製トレイとランチョンマットは今春の発売予定。

■ 天然素材を基本に商品開発

同社のこだわりは木材などの天然素材の使用が基本で「ナチュラル感のあるものは温もりや優しさがあり、そこにおしゃれな雰囲気を加えたい」と大宅社長。今後は100円ショップのほか、専門店で扱われるような付加価値の高い商品にも力を入れたいとのこと。河内長野発の企画商品はこれからも日本中の店舗で販売され、全国の人に愛用されます。



大宅産業 株式会社

同社の原点であるつまようじは現在も主力商品の位置を占める。中でもハッカようじは自社製造をこれからも続けるという。
原町 4-2-12 ☎53-1058

